



TITLE:

文学研究科図書館紹介

AUTHOR(S):

CITATION:

文学研究科図書館紹介. 静脩 2005, 42(1): 12-14

ISSUE DATE:

2005-10

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/37773>

RIGHT:

文学研究科図書館紹介

文学研究科閲覧掛

<蔵書の一冊>

人文科学研究とりわけ文学研究にとって、図書館の史・資料は研究、教育手段の要であり、必要不可欠のものであることはいまさらいうまでもありません。文学研究科図書館は約92万冊の蔵書を有し、また年間2万冊前後の購入をはかっています。この数字は本学ではもちろん全国的にも屈指のものであり、また内容的にも多くの研究者から高い評価を受け、それはこれら史・資料の利用実態にもあらわれているといえます。

蔵書の1冊に「アウグスティヌス『小論集』(1491年)」「哲学 C-357」があります。これには「Anselmus『Opera et tractatus』(1491)」が合冊製本されています。1923(大正12)年12月5日受入、登録番号261655、購入価格75円となっています。



アウグスティヌス『小論集』(1491年)

揺籃期本(通称インキュナブラ)と呼ばれるものは刊行年が1500年(使用暦の関係で1501年4月10日)のものまでをいいますが、この『小論集』はその1冊に当たります。

西洋における活字印刷、本格的な活版印刷はグーテンベルグが1454-55年に刊行した『42

行聖書』を嚆矢とし、その後の約50年間に4万版、2000万部が刊行されたといえます。

日本に将来されたインキュナブラとしては、帝国図書館(現国立国会図書館)に1916(大正5)年購入されたアリストテレス『問題集』が最初のものようですが、この『小論集』も早い時期に購入された1冊といえます。

文学研究科がその創設以来、原典を研究し原典から学ぶという姿勢を貫いてきた、一つの証といえるのではないのでしょうか。

<機械貸出の開始>

当館では、昨年4月1日から機械貸出の本格実施を開始しました。

現在、機械貸出対象となるIDラベル貼付図書は、所蔵図書92万冊の内の4割ですが、並行して行われている遡及入力とIDラベル貼付作業の進行により、徐々に増加しています。利用者は、従来の「手書き方式」と「機械貸出方式」の2つの方法で貸出手続をすることになりましたが、“遡及率が低い、特殊資料が多い”等の理由から当初予想されていた混乱もなく、各々の方法で貸出手続をとるスタイルも定着しつつあります。

1冊ずつ表紙を見てはひっくり返して、IDラベル貼付図書であった時の「当たり」という表情は、利用者閲覧掛員双方に共通で、機械貸出による手続簡略化の便利さを実感しています。これらの結果、文学研究科はもちろん、文学研究科以外の研究科や他大学の利用件数も増加しています。

もう一つの機械貸出導入後の変化は、貸出冊数と期間に対する関心が強くなったことで

しょうか。機械貸出画面は、まさに機械的に延滞や冊数オーバーを表示し、更なる貸出を拒否するのですから、いやでも期限や冊数を守らなくてはならないという認識を深める結果となっています。図書延滞抑止力は、「人間」より情に流されない「機械」にあるようです。

<ILL>

当館は昨年6月からNACSIS-ILLの受付館になりました。現在、NII料金相殺サービス参加館との間で文献複写や現物貸借の依頼と受付を行っています。

平成16年度の文献複写送付件数は1ヶ月平均175件でしたが、最近では200件を超えることも珍しくありません。今後の件数の変化が気になるところです。現物貸借では学外貸出不可としている特殊文庫の希望が多く、依頼に応じられず残念である一方、諸先生方のコレクションの価値を改めて認識しています。

依頼は公費で支払うもののみを扱っていますが、附属図書館で行っている私費によるものを合わせると、文学研究科構成員の依頼は年間2,000件程度になります。

図書館は相互協力がなければその機能を大きく欠くことになります。業務の合理化が求められる今日ですが、処理の簡素化に心がけつつ、サービスは充実していきたいと考えています。



文学研究科図書館閲覧室

<参考調査>

閲覧掛には、他大学からの訪問利用に関連してFAXで送信される所蔵調査をはじめさまざまな質問が寄せられます。他大学からの所蔵調査・事項調査については記録として文書に残るので統計をとっています。

一方、電話やカウンターに寄せられる様々な口頭での質問については、昨年6月から内容毎に数値統計をとり始めました。また質問内容と調査結果を文書として記録し回覧して閲覧掛共通の知識とすることとしました。

この中から一例をご紹介します。学外者から「マルセル・ブルーストの『失われた時を求めて』のタイプ原稿に、後に著者自身が手書きで書き入れたもののコピーがあるか」という質問がありました。正確な回答をするためには当該分野の専門的な知識を要しましたので教員に問い合わせました。その結果、NACSIS-Webcatに登録されていない他大学の詳細な所蔵状況などもわかり、質問者には教員から回答してもらえることになりました。このように、図書館に寄せられる質問の中には専門である教員の協力を必要とするものもあります。

今後は調査データの蓄積など充実させ業務に反映できればと思います。

<図書館ホームページの開設>

文学研究科図書館のホームページを昨年7月1日に開設しました。

図書館の蔵書をインターネットで手軽に検索することが一般的になっている状況から見ると、“遅ればせながら”といえますが、開館日程や利用案内のほか、図書館からのお知らせを随時掲載しています。

当館の所蔵資料の大部分は地下一階と二階の書庫内に保管されています。一般的な図書館では蔵書全体がある一定の法則で分

類され、分類番号順に並べられていますが、当館の場合は29の専修毎にそれぞれ独自の分類があり、違う記号体系で資料が並んでいます。さらに、美学はC書庫、イタリア文学はE書庫、東洋史はF書庫、というように、専修別にAからGまでの7つの書庫に複雑に分かれて配置されています。



地下一階G書庫(考古学) 大型図書

ですから、いきなり書庫に入って資料を探す前に、まずはどの専修の図書かを確認しなければなりません。そこで活躍するのがオンライン目録(OPAC)ですが、残念な

がら、当館の蔵書の約57%はオンライン目録(OPAC)に入力されていません。

特定の文庫や一定期間より前に収集した漢籍など、冊子体の目録を備えているものもあれば、閲覧室と書庫内双方のカード目録を調べてやっと所在が判明する場合もあります。

古いアラビア語資料がヒットするのに、1990年代の和図書が出てこない?? 一筋縄ではいかない資料の検索方法について、窓口では十分に案内しきれないのが実状です。

学内でも最大規模の蔵書を効率よく検索し、スムーズに利用してもらえよう、ホームページでの利用案内を充実させたいと思っています。

「今日は休館日やったっけ?」とがっかりして引き返す学生さんがいなくなったことを期待しつつ、学習・研究に役立つページに育てたいと意気込んでいます。

* 文学研究科図書館ホームページ

<http://www.bun.kyoto-u.ac.jp/lib/index.html>

《文学研究科・文学部 平成16年度利用統計》

1. 貸出(上段:人数,下段:冊数)

文	他学部	合 計	一日平均
11,464	3,214	14,678	68
24,206	6,299	30,505	142

2. 閲覧(上段:人数,下段:冊数)

文	他学部	学 外	合 計	一日平均
7,763	1,906	1,949	11,618	54
21,236	5,803	7,900	34,939	162

3. ILL(件数)

依 頼(公費のみ)		受 付(相殺のみ)	
複 写	貸 借**	複 写**	貸 借**
86	39	1,750	301

4. 参考調査(FAXのみ)

	所蔵調査	事項調査
依 頼(件)	163	56
受 付(件)	1,427	

* 文…文学研究科・文学部

**平成16年6月から平成17年3月の合計